

平成20年4月10日
株式会社 新生銀行
(コード番号: 8303)

当行のIT手法の公表についてインド工科大学カンプール校(IIT Kanpur)との覚書に調印

金融機関における初の試み -

当行は、金融機関のIT技術に関する初の試みとして、インド工科大学カンプール校(「カンプール校」と協力し、当行が持つ独自の情報技術を誰でも自由に利用できるよう公表していきます。カンプール校は、当行のIT手法を学ぶことのできる講座をカンプール校に開設し、その内容を知的財産の公開と蓄積を促進するための非営利団体であるクリエイティブ・コモンズを通じて誰でも利用できるよう公表することを計画しています。このような構想ならびに関連の研究の一環として、カンプール校は、自校のITシステムを再構築するために新生銀行のIT技術を利用することを検討しています。

当行社長のティエリー ポルテとカンプールのダイレクターであるサンジャイ・G・ダンデ(Sanjay G. Dhande)博士は、覚書への調印を行っております。

当行は、今から8年前の2000年の新生銀行としてのスタートに際し、新たにITシステムを設計・構築しました。当行の最高情報責任者であるダナンジャヤ・デュイベディ(Dhananjaya Dvivedi)とそのチームが、問題の解決法をインドに求めました。デュイベディがまとめあげたインドのエンジニアおよびインド企業のチームはわが国のインターネットリテラルバンキングの分野で、現在に至るまでその標準ともいえる革新的なプラットフォームを作り上げました。当行は、カンプール校との本提携を、当行の再スタート時に重要な役割を果たし、その後の発展に寄与してくれたインドのIT業界に対して恩返しをする好機としてとらえています。

当行社長のポルテは以下のように述べています。「これは第一に、当行のインドへの感謝の意を表すものです。また、本件は革新的なITプロジェクトにおいて、インド最高の工科大学のひとつと協力をすることのできる貴重な機会でもあり、当行がほかにはないタイプの日本の銀行であることのさらなる証左と考えています。」

クリエイティブ・コモンズのライセンスを通じた当行のIT手法の普及を図ることで、当行は、多くの方面でメリットを享受できると考えています。当行の手法に対する認識が世界中で高まることにより、当行は、当行やそのパートナー企業で働く可能性のあるより多くの人々にアクセスできるようになり、長期的には、当行の手法に習熟した多くの技術者や専門家が育つことにもなります。当行は、当行以外の人々や企業が、当行のIT手法を用いて仕事をするにより、すべての人々がメリットを享受できる改善や飛躍を実現できると考えています。

本プロジェクトはインドの元ディスインベストメント・コミュニケーション・情報技術担当大臣で、現在はインドの有力ジャーナリストである、アルン・ショウリ(Arun Shourie)氏が、当行をカンプール校に紹介したことに始まります。ダンデ博士は、2008年初めに当行の最高情報責任者に面談した際、当行の先端IT技術がもたらすメリットを理解し、その先進的な手法がクリエイティブ・コモンズを通じて広く公開できるように協力を行うことに同意しました。

インド首相の上級科学顧問でもあるダンデ博士は、次のように述べています。「新生銀行と同じくカンプール校はITにおけるイノベーションに取り組んできました。本プロジェクトは非常に大きな可能性を秘めた実績のあるIT手法を実践し、教えることのできる素晴らしい機会です。カンプール校は図書館でのサービス、受講

登録、給与支払やプロジェクト管理をインドで初めて自動化し、かつそれらすべてを外部の手を借りずに成し遂げました。カンブール校の近年の拡大に伴い、ITを展開していくための新しいモデルが必要となっています。」

当行のIT手法は、「ソフトウェアの設計及びITプロセスにインダストリアル・エンジニアリングの手法を応用したものである」と表現すると最も分かり易いでしょう。銀行では、大量の書類が行き来し、多くの署名や印鑑が必要とされるのがこれまでの伝統でしたが、当行では、ペーパーワークは、基本的に「バーチャルな」形で行われます。すなわち、従業員の関与は最小限で、自動的な「生産ライン」に沿ってイメージ画像が動くわけです。当行は、すべてのメインフレーム・コンピュータを、パソコンクラスのサーバーや既製コンポーネントに置き換え、コスト面で有利なモジュール式の柔軟なITシステムを構築しました。このユニークなコンピュータシステムにより、迅速な変更が可能になり、例えば、システム構築当初には想定していなかった、インドへの投資を行う投資信託を日本で販売するような、新しいビジネスに対応するための拡張が可能になりました。ハーバード・ビジネス・レビュー誌の3月号の記事の中で、デビッド・アプトン(David Upton)教授 とブラッドリー・スターツ(Bradley Staats)教授は、当行の手法を「他の企業にも役立つモデルである」と評しています。

クリエイティブ・commonsのチェアマンで、IT企業家の伊藤譲一(Joi Ito)氏は、「当行が自らの手法と技術を他の企業に提供することを素晴らしいことである。」と述べています。クリエイティブ・commonsは、2001年に、スタンフォード大学の法律の教授で、同大学のインターネット & ソサイアティ・センター(Center for Internet and Society)の創設者でもあるローレンス・レシグ(Lawrence Lessig)教授がサンフランシスコに設立した制度です。

クリエイティブ・commonsの伊藤(Ito)氏と当行社長のポルテとの間のIT構想に関する対談の映像を、以下のYouTubeのサイトに追って掲載する予定ですので、ご参照ください。
<http://www.youtube.com/shinseibankpr>

以 上

インド工科大学カンブール校について

インド工科大学カンブール校は、インド政府によって設立されたインド最高の研究機関のひとつです。この研究所の目的は、重要な教育の提供、最高水準の斬新な研究の実施、国家の産業の育成に向けて技術革新の指導的役割を果たすことにあります。同校は、1959年に100人の学生と小規模の学部で教育活動を始めました。現在、同校は、宿泊施設のある広大なキャンパスを有し、2,255人の学部学生と1,476人の大学院生が在籍しています。309の学部があり、900人以上の教員を擁します。カンブール校の詳細内容については<http://www.iitk.ac.in/> をご参照ください。